高梁の文化財⑯

穴門山神社と社叢

川上町高山市にある穴門山神社は、平安時代に編纂された「延喜式神明帳」にも記載されているように、古くから人々の厚い信仰を集めた神社です。

石灰岩台地に刻まれた深い谷間に立地しており、周辺には特異なカルスト地形が広がっています。本殿の背後には石灰岩の断崖絶壁を背負っており、本殿左奥には社名の由来ともいわれる奥行六七㍍の鍾乳洞が口を開けています。

本殿（県指定重要文化財）

境内のおもな建築物としては、本殿、拝殿（以上、県指定重要文化財）、本門、随神門（以上、市指定重要文化財）があります。穴門山神社は、寛永九年（一六三二）に火災にかかり、この時社殿はすべて焼失しましたが、その後、備中松山藩主の池田氏や水谷氏によって相次いで再建されました。現在の本殿はさらに後、宝暦三年（一七五三）に再建されたものですが、桃山時代の建築様式を取り入れた装飾性の強い建築です。拝殿も本殿とほぼ同じ頃に再建されたものと考えられています。本門と随神門はやや新しく、いずれも江戸後期の再建と考えられます。

拝殿に残された六枚の棟札（県指定重要文化財）は、こうした再建や修理の履歴を記録した貴重な史料です。

これらの建築物に加え、神社の前面に築かれた高石垣もなかなか見応えがあります。東西六〇㍍、高さ二六㍍におよび、お城の石垣を思わせます。おそらく、これも備中松山藩主の手によって整備されたものでしょう。このように穴門山神社の境内は、史跡としての価値も高いと評価されています。

穴門山神社のもう一つの見所に、社叢（県指定天然記念物）があります。社叢というのは神社を取り巻く森のことで、カツラ、ケヤキ、マツ、イチョウ、スギなどの巨木が林立する原生林が広がっています。生育する植物の種類も多く、昭和五年の調査記録では実に四三八種にのぼっています。

中でも神社前面の高石垣に沿うようにそびえるカツラの木は、高さ約三〇㍍の巨木で、推定樹齢七〇〇年、県下第三位の大きさといわれており、穴門山神社の社叢を代表する樹木です。

（文・社会教育課文化係長　尾上元規）

推定樹齢700年のカツラ

編集と発行（毎月15日発行）高梁市総務部企画課
〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043　電話0866(21)0210　ホームページアドレス http://www.city.takahashi.okayama.jp/

この印刷の一部には水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。
PRINTED WITH SOY INK 環境にやさしい大豆油インキを使用しています。
再生紙を使用しています。